

第3章

基本理念

(1) 基本理念

人をつなぐ、活動をつなぐ、時をつなぐ
～新たな福知山市の魅力を築く文化振興の拠点～

新文化ホールは、福知山市における芸術文化、歴史文化、その他文化的な価値を有するあらゆる「文化」の振興を推進する拠点として、また福知山市の未来を見据え、次世代を担う子どもたちをはじめ市民の夢や希望の実現を目指します。

芸術鑑賞の機会の充実、文化に触れるきっかけづくりや様々な活動支援の提供、文化活動を通した多世代での交流の活性化、日常的に憩える場づくり等、文化を振興するための環境を整備するとともに、福知山市の様々な歴史資源や文化資源を

活かした新たな活動の創造等、魅力を築く拠点づくりを進めます。

福知山市、さらに北近畿エリアを視野に広域で人と人をつなぎ、教育やまちづくり等、多様な分野をつなぎ、過去と現在・未来をつなぐ等、様々な「つなぎ」を生み出すことによって、お互いを刺激し、福知山市の新しい文化、ひいては福知山市の未来を創造する拠点となることを目指します。

(2) 基本的な役割

1) 鑑賞・体験 「知る・見る・感じる」機会の充実から新たな活動を「つくり・つなぐ」文化振興の拠点	新文化ホールが鑑賞・体験・創造活動の場 となるよう、良質な文化芸術の鑑賞から、気軽に参加できる講座やワークショップ、市民が舞台に立つ作品づくり等、文化芸術に触れる様々な機会を提供します。また、市民の活動に対して、情報や交流機会の提供等を積極的に行い、日常的な練習や成果発表を支援します。
2) 人材育成 次世代に活動を「つなぐ」コーディネーターの配置	これからの福知山市の文化振興の担い手となる若い世代や、子どもたちの活動を支援するために、本市の文化活動を牽引する人材の育成が不可欠です。
3) 交流 市民の憩いの場の創出による、出会いや交流の促進	市民がいつでも自由に、気軽に、立ち寄り、日常的ににぎわい憩える居場所とします。
4) 創造 福知山市の地域資源を活かした新たな魅力を築く	福知山市に息づく豊富な歴史資源や地域の伝統文化の活用、分野を超えた連携等を行うことにより、福知山市独自の新たな文化活動や魅力を築きます。
5) 安心・安全 「幸せを生きる」安心・安全なまちづくりへの寄与	観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、派生する分野とも連携し、市民が「幸せを生きる」まちづくりに寄与します。

第5章

管理運営の考え方

(1) 管理運営の基本的な考え方

1) 芸術文化と市民を「つなぐ」ための多様な鑑賞機会、体験機会の提供	2) 若い世代が中心となって人と人を「つなぐ」懸け橋となるための市民参加の推進	3) 過去・現在・未来へと続く「つながり」のきっかけをつくるための、日常的に居心地の良い空間づくり	4) 福知山市の豊かな歴史資源と文化資源を「つないで」生まれる独自の文化づくり	5) 文化の力を活かして文化と他分野を「つなぎ」、まちを活性化する連携事業の推進
文化振興の基盤となる環境づくりや持続的に活動が可能な仕組みを作るため、専門的な人材の配置等を含めた人員体制を検討し、鑑賞と体験機会を提供します。	地域の若い世代が活躍できるよう、アウトリーチやワークショップ等若い世代が参加しやすい事業に取り組み、また、事業の企画段階から積極的な市民参加・参画を進めます。	特別なイベントがなくても、誰もが気軽に施設を訪れ、多世代で日常的に憩える空間づくりに努めます。	福知山市の地域資源の活用や連携によって独自の文化づくりや新たな魅力を創造していくため、福知山市の人材を含む資源の掘り起こしを行い、それらを有機的に結びつけることで、新たな作品や活動づくりを目指します。	市内の様々な要素や他分野等と積極的に連携することによって、新文化ホールでの活動・にぎわいが施設内にとどまらず、まちへと波及し、まち全体の活性化につなげます。

第4章

新文化ホールの整備方針

(1) 施設機能及び構成

1) ホール機能

優れた音響性能を備え、音楽をはじめとした様々な舞台芸術等に対応する多機能ホールとします。

- 新型コロナウイルスの流行による新しい価値観や本市の将来人口推計等をふまえるとともに、これまでの厚生会館の利用状況や施設利用団体へのヒアリング結果から、収容人数は、500人～800人程度を想定。
- 客席は固定席とするか、平土間ホールとするか、基本計画において検討。
- 鑑賞に適した座り心地の良い座席とするとともに、障害のある方や高齢者の利用に配慮。
- 多様な演目に対応可能な舞台サイズと設備を備える。
- 楽屋や搬入等、バックヤードを充実させ、利用者が使いやすい施設。

2) 創造活動機能

市民の日常的な創造・発表活動を支える機能として設けます。

- 日常的な練習の場として楽器演奏やダンス等、音の出る活動に対応した防音性能を備えたスペース、美術活動に対応し、作品を展示することができるスペース、その他研修や会議等に対応するスペース等の配置を検討。
- ホールの利用者が舞台と同規模の広さの空間でリハーサルを行ったり、練習の成果を披露する小規模な発表に対応できるスペースを検討。
- これらの機能については、市内の他公共施設等との機能分担を考慮しながら配置する。

3) 交流機能

誰もが気軽に訪れ、施設に賑わいをもたらす機能として設けます。次のようなスペースの配置を検討します。

- 明るいロビーや市民の憩いの場となる交流スペース
- 子どもと親子がくつろげるスペース
- 市の文化情報に触れることができるスペース
- 飲食や物販のためのスペース
- 自由に使えるベンチやテーブル
- 様々な活動をする市民をサポートするためのスペース

エリア全体にインターネット環境(Wi-Fi)を整備します。

4) 防災機能

市民や利用者の安心安全のため、防災機能を備えます。

福知山市新文化ホール

①ホール機能

ホール

②創造活動機能

練習・発表
リハーサル
展示
会議

③交流機能

ロビー・市民交流
子どもサポート・情報
飲食物販・市民活動支援

④防災機能

(2) 施設の規模

施設全体、ホール、諸室の配置・室数等、具体的な施設規模については、建設地とあわせて基本計画において検討します。諸室や空間は、様々な使い方に対応できる「多機能」なものとすることで、稼働率を高めるとともに、多様な市民ニーズに対応できることを目指します。

(3) 施設整備における配慮事項

今後の施設整備においては、右表の内容に留意しながら検討します。

安全性	地震や水害等の自然災害に対する強度、避難所機能 等
利便性、快適性	ユニバーサルデザイン、バリアフリー、ICTの活用 等
経済性、効率性	建設費、維持管理費の抑制 等
環境共生	ゼロエネルギー、再生可能エネルギー等の活用 等
まちづくり	まちの資源との連携による地域の魅力向上 等

(4) 建設地

建設地の選定にあたっては、新施設が果たすべき役割や機能・構成等をふまえるとともに、法規制や行政計画、公共交通機関や道路等のアクセス条件をはじめ、様々な観点等から検討します。

新たに建設地を確保するためには相応の時間を要することになり、事業費の増加も見込まれるため、市所有地を活用することを想定します。